

新インフルエンザ対策
京都府丹後保健所HPバナー

No.8

新型インフルエンザNEWS

～毎月12日(インフル)は、新型インフルエンザを考える日～

編集／発行 (京都府丹後広域振興局)
新型インフルエンザ対策ワーキング会議

丹後保健所 **検索**

<事務局>
京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)
保健室 感染症・難病担当
〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855
TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368
www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

もくじ <ワイド版>

- ・ifではなく whenです。……………①
- ・鳥インフルエンザの人での発症事例……………①
- ・研修会情報……………②③
- ・用語解説(不織布製マスク)……………④
- ・家族を守る(Vol.1)……………④

ifではなく whenです。

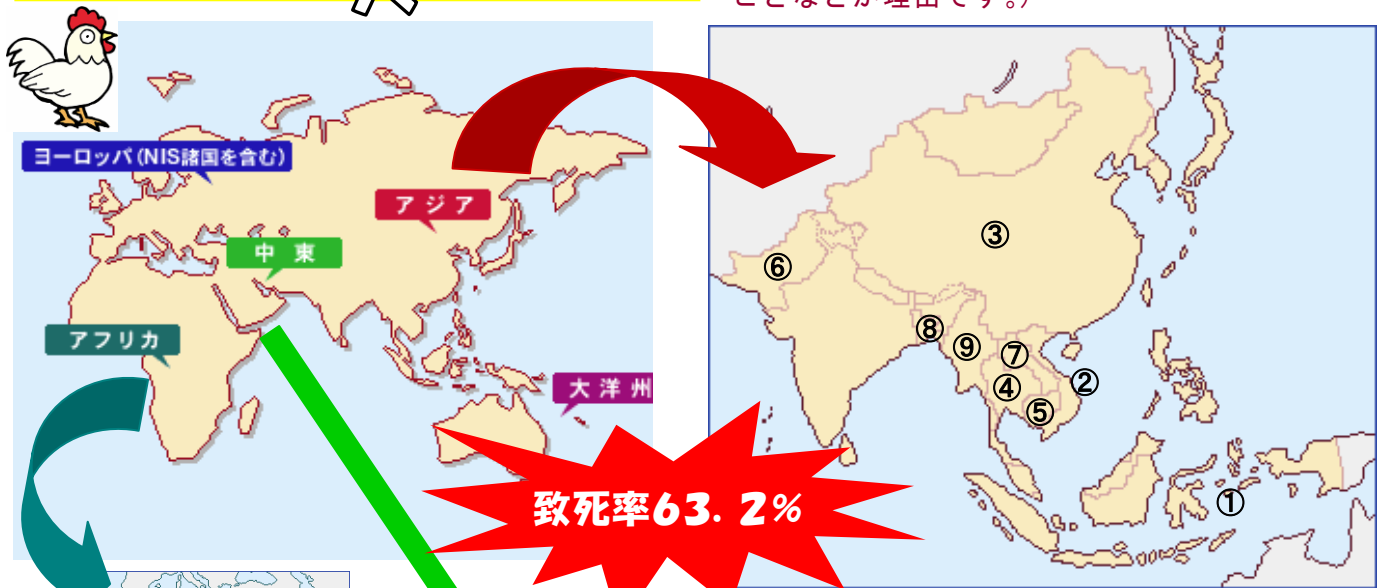
新型インフルエンザは、もしも (if) 発生すればではなく、いつ (when) 発生するかの段階にきています。

鳥インフルエンザ(H5N1)の人での発症事例は、アジア、中東、アフリカ地域であり、症例数391人、死亡数247人、致死率63.2%(2003年11月～2008年12月16日現在)となっています。

鳥での発生は、世界各地であり、既にパンデミックと考えられ、いつ人から人へと容易に感染する「新型インフルエンザ」に変異するかわかりません。

このH5N1ウイルスが新型に変異し、致死率が下がるとパンデミックの危険性が高まると考えられます。(ウイルスが強毒で致死率が高い状況では、多くの人に接触する前に死亡することなどが理由です。)

鳥インフルエンザ(H5N1)の人での発症事例



アジア		
国名	症例数	死亡数
①インドネシア	139人	113人
②ベトナム	106人	52人
③中国	30人	20人
④タイ	25人	17人
⑤カンボジア	8人	7人
⑥パキスタン	3人	1人
⑦ラオス	2人	2人
⑧バングラデシュ	1人	0人
⑨ミャンマー	1人	0人

アフリカ		
国名	症例数	死亡数
⑬エジプト	51人	23人
⑭ナイジェリア	1人	1人
⑮ジブチ	1人	0人

中東		
国名	症例数	死亡数
⑩トルコ	12人	4人
⑪アゼルバイジャン	8人	5人
⑫イラク	3人	2人

<出典>データ:厚生労働省健康局結核感染症課 2008年12月16日現在(2008.12.16更新資料)
厚生労働省HP新型インフルエンザ対策関連情報で最新情報が確認できます。
(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html)
地図:外務省HP

研修会情報



ソナウレ君

1人の感染が1週間で全国に拡大するの！

丹後保健所では、新型インフルエンザ対策を推進するため、医療機関や市町等と協同して研修会を開催しています。

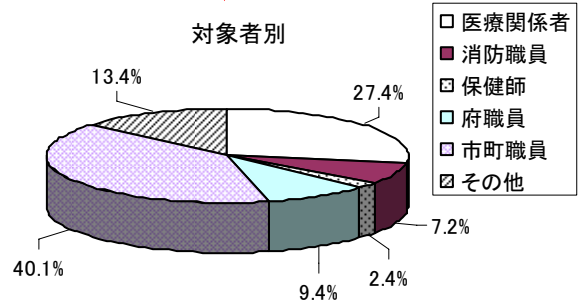
研修会では、新型インフルエンザの基礎知識についての講話、マスクの着用方法や手洗い実習の他、備蓄食料品等の展示も行っています。

最近、新型インフルエンザに関するマスコミ報道も増え、また、保健所、市町等の広報の効果もあり、住民団体からの依頼も増えてきました。

受講者数 2,064人

区分	4~6月	7~9月	10~12月	合計	回数
医療関係者	143人	307人	116人	566人	9回
消防職員			148人	148人	4回
保健師		50人		50人	2回
府職員		195人		195人	4回
市町職員		342人	486人	828人	12回
その他	33人	14人	230人	277人	6回
合計	176人	908人	980人	2,064人	37回

丹後保健所実施分(平成20年度3期報告)



☆研修会の目的☆

関係機関の対策や適切な医療提供により健康被害を最小限にとどめる。

— 研修会の内容 —

- **新型インフルエンザとは？** (図1 参照)
 - ・ 重篤な症状を起こす感染症 (季節性のインフルエンザと違い、人は免疫を持っておらず、発症すると多臓器不全を起こすなど致死率が高い。)
 - ・ 世界中をほぼ同時に覆いつくす大災害 (感染力が強く、交通機関も発達しているため、瞬く間に感染拡大する。)
- **日本では、人口の25.0%が罹患すると予想** (表1 参照)
- **現在の対策** (新型インフルエンザ行動計画やガイドラインに基づく)
 - ・ 発熱外来や入院可能な医療機関の体制整備
 - ・ 危機管理体制の構築 (パンデミック時のライフラインや食料等の確保)
 - ・ 各機関の役割等
 - ・ 住民への啓発 (咳エチケットや備蓄のすすめ、発生時の外出自粛等)
- **実践編**
 - ・ 手洗い方法、マスクの装着方法、防護服の着脱方法等

<参照> 国立感染症研究所 岡田晴恵氏資料

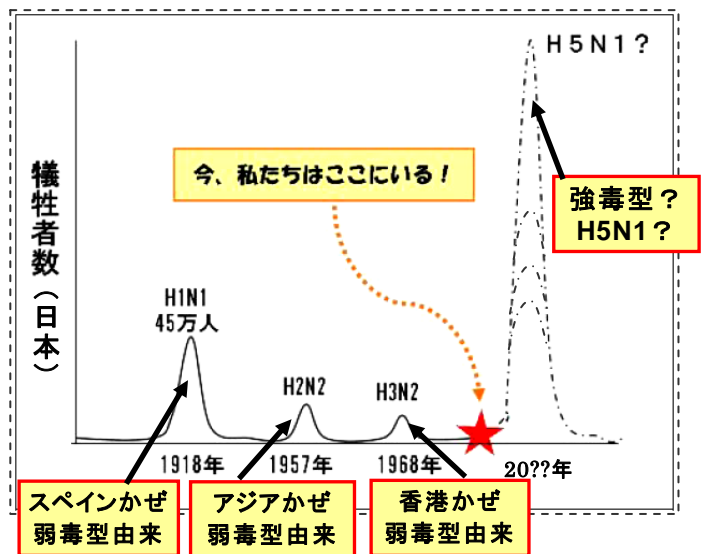


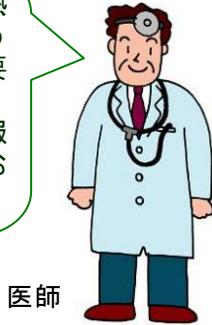
図1 パンデミックのサイクル(30~40年ごと)

表1 日本での罹患予想

区分	京都府全体	丹後地域
受診患者数	277,000~520,000	11,630~21,840
入院患者数	11,000~41,000	460~1,720
死亡数	3,400~13,000	140~550
1日最大入院患者数	2,080	87

研修会参加者の感想

遠方の患者さんが発熱外来で受診できるよう交通手段の確保が必要では？
研修会等で知識・情報を地域住民に伝えておく必要があります。



医師

オレ様に感染すれば、多臓器不全を起こす人が出るぞ！



新型インフルエンザウイルスキャラクターの名称を決定しました。由来はパンデミックとパニックです。

パンデミック時の体制や役割の確認と住民への啓発や広報をしっかりとしていこうと思えました。



行政職員

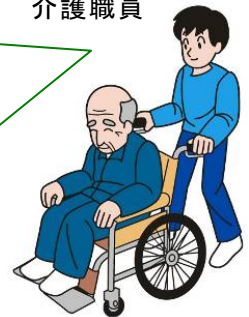
情報の共有と職員自身の感染防止対策がとても大切だと感じました。



消防職員

外国のことで関係ないと思っていましたが、施設でも、うがい・手洗い・咳エチケットを徹底し、感染拡大を予防しようと思えます。
知識を得たことで家族全員分の備蓄もしておこうと思えます。

介護職員



丹後地域全体で新型インフルエンザ対策が進められています。

【医療機関】

「発熱外来」や「入院患者の受け入れ」の現地訓練を重ね、トリアージや感染拡大防止の検証をされています。
H20. 11. 27 与謝の海病院
H21. 1. 30 弥栄病院(予定)
※トリアージ: 状態によって振り分けること

【警察署】

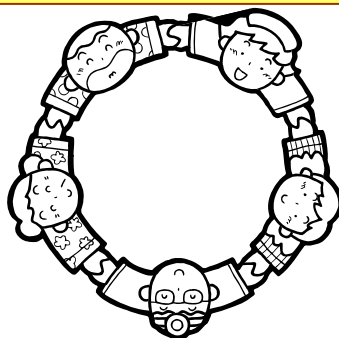
新型インフルエンザの知識を深められています。京都府警の行動計画に基づき、各関係機関の活動支援や治安の維持に係る取り締まり等を実施されます。

【市役所・町役場】

新型インフルエンザの職員研修を受講されました。住民への啓発・広報を実施され、発生時に各部署がスムーズに動けるようマニュアル作り着手されている市や町もあります。

【消防署】

職員全員が新型インフルエンザ研修を受講され、安全な患者搬送の練習や知識を深められています。
職員用の感染防護衣の備蓄や着脱の練習も必要と考えられています。



【介護施設等】

施設内での感染拡大防止のため、知識を深め手洗いなど感染防止について、職員研修を実施されています。

【住民団体】

新型インフルエンザの研修を受講され、家庭でも今から話し合い、最善の準備が必要と感じられました。周りの人にも伝えていきたいとの感想もありました。

スーパーの備蓄コーナー
(京丹後市内)

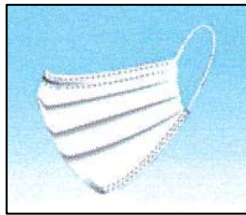


【スーパー】

丹後地域で食料や物資の販売継続の方法や発生時に店員の感染防止に配慮した営業計画を考えているところがあります。
また、スーパー内に特設コーナーの設置やチラシを作成しているところもあります。

ふしょくふせい
(用語解説) **不織布製マスク**

不織布とは、織っていない布という意味で、繊維あるいは糸等で織ったりせず、熱や化学的作用によって接着させて布にしたもので、現在市販されている家庭用マスクの97%が不織布製マスクです。マスクは口と鼻をしっかりと覆い、咳やくしゃみのしぶきの飛散を防いだり、ほこりや飛沫等の粒子が体内に侵入することを防ぎます。新型インフルエンザ発生時の外出等の際は、不織布製マスクの使用が推奨されていますが、日本ではそのほとんどを輸入しているため、**発生後はすぐに品切れとなる恐れがあります。**自分や大切な家族を守るため、**マスクを1人20～25枚備蓄することをおすすめします。**



プリーツ型



立体型

購入時のポイント
 ○不織布製は「ポリエステル」等の表示があります。
 ○サイズの確認(子ども用・女性用等あります)
 ○枚数は、1人あたり 20～25枚
 (内訳) 発症時に 5～10枚
 やむを得ない外出用 15枚

交換の目安
 原則使い捨てであり、1日1回外出からの帰宅時には捨てましょう。はずす際は表面に触らないよう注意し、ビニール袋に入れて口をしぼり廃棄します。

子どもに正しい着用を
 特に幼児は、一定の時間、正しく着用することが困難なため、保護者の判断のもとで着用させましょう。

家族を守る!
Vol. 1

感染防止の7箇条(致死率の高いパンデミック時)

新型インフルエンザの感染防止策は従来のインフルエンザ以上に個人個人の備えや予防が重要です。国内で感染者が見つかったら、大流行を防ぐため、そして自分の身を守るために最大限の感染防止策をとることが大切です。

1. 通学しない	学校は流行の早い段階で休校になります。休校中に子どもをスーパーや遊び場などへはもちろん、友達の家や塾にも行かせてはいけません。
2. 通勤しない	日本人は無理をしてでも会社に行く傾向があります。流行初期にまだ大丈夫だろうと不用意に通勤することが流行を広げる原因となります。 ※職場に対策マニュアルがある場合にはそれに従って勤務しましょう。
3. 買い物しない	食料品や日用品などを買い求めて、お店は混乱が予想されます。買い物の必要がないように備蓄しておきましょう。
4. いつもの病院に駆け込まない (新型インフルエンザを疑う時は「発熱外来」へ)	病院内で感染したり、他の病気で入院している患者や通院患者に感染させないように、受診する前に保健所や病院などに連絡します。慢性的に服薬している方は、医師と相談してあらかじめ多めに薬をもらっておきましょう。
5. 電車をやめて徒歩か自転車で	電車やバスは非常に感染しやすい空間です。やむをえず乗車する時は、なるべく空いている時間帯に防備を万全にして乗車しましょう。自家用車の移動は比較的安全ですが、渋滞やガソリンの供給不足も予想されます。ガソリンの残量に注意して、家族が発病した時などのために備えましょう。
6. いつもマスクを忘れずに	人混みならばどこでも感染の危険性があることを前提にマスク・ゴーグルを着けましょう。ゴーグルは目からの感染を防ぎます。
7. 外から戻ったら必ず手洗い	ウイルスは目や手を介しても感染します。外から戻ったときは丁寧に手洗いや洗顔などを行って体についたウイルスを洗い流すようにします。合わせて、うがいも行いましょう。(鼻の奥のウイルスを落とせないことなどからうがいの効果は限定的です)

新型インフルエンザNEWS No.9
(平成21年2月12日発行)
 ・トピックス
 ・訓練から学ぶ
 ・用語解説(外出自粛)
 ・家族を守る(Vol.2)

<出典> 新型インフルエンザ予防マニュアル 監修 国立感染症研究所 岡田晴恵氏
 ※内容を一部変更し、掲載させていただきました。